

注意報第8号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予察注意報第8号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第8号を発表したので送付します。

イチゴのハダニ類は、定植直後から発生が多く、平成18年10月12日に注意報第7号、12月22日に技術情報を発表し、防除の徹底を呼びかけたところです。

しかし、**依然として発生が多い状態が続いており**、暖くなると増殖が早くなり、防除が困難となる傾向があるので、**防除の徹底を指導願います**。

イチゴ

1 病虫害名：ハダニ類

2 発生地域：県下全域

3 発生予想：多い

4 注意報の根拠

(1) 1月2半旬の調査では、発生ほ場率は77.8%（平年：34.0%、前年：61.5%）、寄生株率は23.0%（平年：4.7%、前年：11.5%）と過去10年間で最も高く依然として発生が多い。

(2) 暖冬で、ハダニ類は平年に比べ活発に活動している。気象予報では、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予想されており、今後も発生の増加が予想される。

5 防除上注意すべき事項

(1) ハダニ類はスポット的に発生することが多く、地面に接した下位葉ほど寄生が多いため見落としやすい。葉かぎ等の管理作業時に虫眼鏡等でよく観察し、発生がみられたら早急に防除を行う。防除は、葉裏に薬剤がよくかかるように丁寧に散布する。なお、摘葉後に行うと効果的である。

- (2) 多発ほ場では、卵から、幼虫、成虫まで混在しているため、薬剤を7～10日間隔で連続して2～3回散布する。
- (3) イチゴ以外の植物にも寄生するので、ほ場内や周辺の除草を行う。
- (4) 除草や葉かき後の残渣はハダニ類が寄生している恐れがあるので、ほ場内には放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。
- (5) 薬剤によってはミツバチへの影響があるので、薬剤の選定は注意する。
- (6) 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (7) 薬剤感受性の低下がみられる地域においては、平成19年度野菜病害虫・雑草防除の手引きの「イチゴにおけるナミハダニの薬剤感受性検定結果(40～41項)」を参照し、薬剤を選定する。
- (8) チリカブリダニ等の放飼後にハダニ類が増えた場合は、ハダニ類に効果が高く、天敵に対して影響の少ない薬剤で補完防除を行う。
 詳細は、平成19年度野菜病害虫・雑草防除の手引きの「促成栽培イチゴにおけるIPMマニュアル(279～289項)」を参照のこと。

